

自我の発達



前回に引き続き放送大学大学院文化科学研究科『成人発達心理学』第8章パーソナリティの発達から成人のパーソナリティについて皆さんと考えたいと思います。

前回は、人の特性は生涯変わらないということを書きましたが、成人期には自我による防衛メカニズムが発達すると考えられています。

ヴァイラントという人は、自我の防衛メカニズムは成人期を通じて進化し続け、不適応的防衛から適応的防衛へと変化していくと考えました。

例えば、交通違反切符を切られてしまった男性がいたとします。もしもこの男性が「行動化」という未成熟な防衛を使用して、違反切符を切られてしまいイライラを解消しようとしたとします。

この行動は一時的には怒りを解消するかもしれませんが、交通違反に加えて、悪くすると暴行罪が成立してしまうかもしれず、しかも自分の足も痛めてしまうかもしれません。

この行動で彼は、こうした不必要な損害を被るだけではなく、周囲の人から、怒りっぽくて乱暴な人という印象まで付け加えられてしまうかもしれません。

一方、この場合の成熟した防衛の例としては、ユーモアでその場を乗り切るという方法があります。こちらは、自分の気分がよくなるだけでなく、短絡的な行動をとることでこうむる社会的、実際の損失も回避できます。

ヴァイラントは、成人の発達を子どものように順番に発達段階を経るものではなく、【発達課題】をどの程度達成したかを見ようとした。発達課題は6つ提示しています。

- ① **アイデンティティの獲得**…これまでの家族の一員としての自分から、自分自分の個人としての価値が始まる。
- ② **親密性の獲得**…長い年月にわたって築く絆。
- ③ **職業的統合の獲得**…自分自身にとっても社会にとっても価値ある職業を見つけること。
- ④ **生殖性の獲得**…自己を無償で与える能力を反映し、自己中心的な目的は混入しない。
- ⑤ **意味の守護者となる**…誰か特定の人ではなく、対象は無選択。人類全体を守り、保存する。
- ⑥ **統合の達成**…ある種の世界秩序と霊的感覚をもたらす経験。どんなに犠牲を強いられたものであっても、自分の人生は自分だけのそれだった1回のものであり、そのようにあるべきものありまた、代替できないものと感じること。「英知」

話が大きくなってしまった気もしますが、結局人のパーソナリティは持って生まれたものだけではないということになります。どう生きるか、生きたいと思うかにかかっているのだなと実感します。

先日、わたしが所属する合唱団の30周年記念演奏会が行われました。わたしはそんなに長く関わってはいないのですが、それでも入団してから18年が経ちました。人間であれば高校を卒業する歳です。それだけ成熟できたのかと言えそうですが、むしろ、足りないところがたくさんあるのがわかります。



2018年8月1日：民泊「あおぞら館」開設

わたしたちの音楽監督は、打ち上げの席でこんなことをおっしゃいました。

「この中にはうまくいっている人もうまくいっていない人もいると思うの。うまくいっている人おめでとう。でも、うまくいっていない人も、必ずうまくいくから。」

「うまく」とは自分の思い通りに、という意味でしょうか。わたしは「うまくいく」とは自分が最大限努力した後許されること、なのではないかと思えます。自分だけではできない何かがあるところとわたしは思うのです。

それにしても発達は子どもものものだけではないのです。わたし達成人もまた「英知」を得るために常に柔軟な心を持ち続けたいものです。

辺見妙子

寄付や支援をいただいた方々 順不同(7・8月)

支援金― 土田英順様(7・8月)

渡部鋭幸様(7・8月)

ラベンダー 望月かおり様

食器・コップ 原なつき様 原芽生様

貝殻・まつぼっくり 宍戸幸子様

